

**<実務経験のある教員等による授業科目>**

文学部 国際英語学科

科目名	単位数		教員名	授業概要
	共通 教育 科目	専門 教育 科目		
日本の政治と国際社会(1)	2		戸田 隆夫	本が国際社会とどのように関わり、どのような影響を受け、また与えてきたのか、について、主に近現代における転換点に焦点を当てて理解を深め、それらを踏まえ、未来の日本と国際社会のあり方について自分自身の考えを述べるができるようになることが本講の目的です。本講では、欧米への留学・勤務に加えて、長年、世界各地の開発途上国との国際協力に従事してきた担当教員の経験値を活かし、欧米のみならず、アジア・大洋州、アフリカ、中南米等、より広い視野から、日本と世界の関わりについて認識を深めていくことを目指します。
農とくらし／自然を体験する	2		今村 直美	有機農家としての10年以上の経験、また農福連携の実践を活かし、人と自然、人と食の関わりや環境にやさしい暮らしについて共に考えます。また、環境保全型農業の重要性について認識し、栽培上の問題を具体的にどう解決するか学びます。
キャリア・プランニング I	2		江口 智子	株式会社マイナビ等において就職関連業務に従事している方を講師に招き、職業や就職に向けた基礎的な理解をするとともに、自らの人生を考えながら自己を理解し社会の基本について学ぶ。
キャリア・プランニングIV(1)	2		櫻井 正	・実際の就職活動に向けた実践的な内容である ・マイナビ等、就職関連業務に従事している方を講師に招き、業界研究をはじめエントリーシート・面接対策等、実際の就職活動を想定した実践的な授業をおこなう
国際コミュニケーション演習(1)		2	戸田 隆夫	講義を通じて、単に、プレゼンテーションやディベートの技法のみならず、地球市民としての基本的教養や、双方向性の対話を通じて相互理解や信頼醸成を進めるための心構えと地力を身につけることを目指します。そのために、国際協力に長年関わり、多くの国際会議や国際交渉に関与し、世界各地の開発途上国の政府、人々、メディア等多様なアクターとさまざまなかたちで関わってきた担当教員の実践的な経験値を存分に活かして授業を進めます。
国際コミュニケーション演習(3)		2	小川 尚美	実務通訳に従事している経験を活かし、実習を中心とした演習を行う。多様な分野・タイプの日本文化をトピックとして扱い、クラス全体でのディスカッション、個別の発表、グループワークなど、課題によりおりませず授業を進める他、フィールドワークとして実際のガイド通訳を行う。
国際コミュニケーション演習(4)		2	小川 尚美	実務通訳に従事している経験を活かし、翻訳実習を中心とした演習を行いつつ、翻訳を分析する方法論について説明する講義も一部行なう。様々な分野・タイプの英文を扱いつつ、辞書類の引き方・活用方法も実習する。クラス全体でのディスカッション、個別の意見発表、グループワーク(自他の訳文についてグループに分かれてディスカッションし、各グループの意見をまとめて発表する形式)など、課題によりおりませず授業を進めるので、意欲ある履修者の積極的な参加が望まれる。
キャリア・イングリッシュ I		2	小川 尚美	実務通訳に従事している経験を活かし、実習を中心とした演習を行う。多様な分野・タイプの日本文化をトピックとして扱い、クラス全体でのディスカッション、個別の発表、グループワークなど、課題によりおりませず授業を進める他、フィールドワークとして実際のガイド通訳を行う。
キャリア・イングリッシュ II		2	田中 美保子	翻訳家として小説やノンフィクション作品の翻訳に従事している教員の経験を活かし、翻訳実習を中心とした演習を行なう。翻訳を分析する方法論について説明する講義も一部行なう。様々な分野・タイプの英文を扱いつつ、辞書類の引き方・活用方法も実習する。クラス全体でのディスカッション、個別の意見発表、グループワーク(自他の訳文についてグループに分かれてディスカッションし、各グループの意見をまとめて発表する形式)など、課題によりおりませず授業を進めるので、意欲ある履修者の積極的な参加が望まれる。
国際文化特講IV		2	戸田 隆夫	アジア、アフリカ、オセアニアを中心に、グローバル・サウスと呼ばれている地域の社会、文化の多様性、課題と可能性に光を当て、日本とのつながり、未来の人類社会において果たしうる役割について理解を深め、そのうえで、日本とこれらの地域の関係について自分の考えを持てるようになることが本講の目的です。講義では、国際協力に長年関わり、開発途上地域の人々とさまざまなかたちで関わってきた担当教員の経験値を活かすとともに、未来の人類社会を示唆すると思われる最新の動きを題材として活用していきます。
小 計	8	12		
合 計		20		

**<実務経験のある教員等による授業科目>**

文学部 史学科

科目名	単位数		教員名	授業概要
	共通教育科目	専門教育科目		
日本の政治と国際社会(1)	2		戸田 隆夫	本が国際社会とどのように関わり、どのような影響を受け、また与えてきたのか、について、主に近現代における転換点に焦点を当てて理解を深め、それらを踏まえ、未来の日本と国際社会のあり方について自分自身の考えを述べるができるようになることが本講の目的です。本講では、欧米への留学・勤務に加えて、長年、世界各地の開発途上国との国際協力に従事してきた担当教員の経験値を活かし、欧米のみならず、アジア・大洋州、アフリカ、中南米等、より広い視野から、日本と世界の関わりについて認識を深めていくことを目指します。
農とくらし／自然を体験する	2		今村 直美	有機農家としての10年以上の経験、また農福連携の実践を活かし、人と自然、人と食の関わりや環境にやさしい暮らしについて共に考えます。また、環境保全型農業の重要性について認識し、栽培上の問題を具体的にどう解決するか学びます。
キャリア・プランニング I	2		江口 智子	株式会社マイナビ等において就職関連業務に従事している方を講師に招き、職業や就職に向けた基礎的な理解をするとともに、自らの人生を考えながら自己を理解し社会の基本について学ぶ。
キャリア・プランニングIV(1)	2		櫻井 正	・実際の就職活動に向けた実践的な内容である ・マイナビ等、就職関連業務に従事している方を講師に招き、業界研究をはじめエントリーシート・面接対策等、実際の就職活動を想定した実践的な授業をおこなう
博物館概論		2	堀部 猛	博物館学芸員としての実務経験を活かして、博物館の歴史、博物館の役割と理念、博物館法、現代社会における博物館のあり方などについて、地域博物館の実例を通して解説する。
博物館経営論		2	堀部 猛	博物館管理職としての実務経験に基づき、博物館の適切な管理運営について講義する。博物館経営の意義、博物館の使命と評価、様々な博物館経営の基盤、社会連携などの現状と課題について解説する
博物館資料論		2	堀部 猛	博物館学芸員としての実務経験を活かして、博物館資料の概念や意義を講義する。資料をめぐる地域社会と博物館の実態に即して、資料の受け入れから登録、整理、収蔵、調査研究とその成果の活用について実践的に解説する。
博物館資料保存論		2	堀部 猛	国宝・重要文化財等公開承認施設における学芸業務の実務経験を活かして、良好な収蔵・展示環境の維持と資料保存の基礎力を養う。資料の保存環境と具体策について、温湿度・照明・空気環境の諸条件、生物被害、防災・減災等に分けて講義する。
博物館展示論		2	堀部 猛	博物館学芸員としての実務経験を踏まえ、展示の理念と実践について講義する。展示の歴史、展示の役割と資料保存、展示の理念、展示の企画と実践の4部構成で、人文系博物館の実例をもとに解説する。
博物館教育論		2	堀部 猛	博物館学芸員としての実務経験を活かして、博物館教育の目的や意義、博物館がもつ教育資源と教育方法について講義する。様々な博物館教育の実践例を通して、博物館教育の企画立案、学校教育との連携などについて学ぶ。
博物館情報・メディア論		2	新 和宏	千葉市科学館、千葉の県立博物館4館、国立歴史民俗博物館において、博物館経営及び博物館の全事業領域に従事している経験と知見を活かして、博物館の情報をいかに発信していくか、発信する際の留意点等について講義する
博物館実習		4	堀部 猛	学芸員として館務実習従事の経験を活かして、学内実習、館務実習、学外実習を行う。資料取扱いの心得と実技、資料台帳の作成、資料の調書と梱包、展示の企画・設計を行い、博物館学芸員としての実践的能力を養う。
小 計	8	18		
合 計	26			

＜実務経験のある教員等による授業科目＞

文学部 心理学科

科目名	単位数		教員名	授業概要
	共通教育科目	専門教育科目		
日本の政治と国際社会(1)	2		戸田 隆夫	本が国際社会とどのように関わり、どのような影響を受け、また与えてきたのか、について、主に近現代における転換点に焦点を当てて理解を深め、それらを踏まえ、未来の日本と国際社会のあり方について自分自身の考えを述べるようになることが本講の目的です。本講では、欧米への留学・勤務に加えて、長年、世界各地の開発途上国との国際協力に従事してきた担当教員の経験値を活かし、欧米のみならず、アジア・大洋州、アフリカ、中南米等、より広い視野から、日本と世界の関わりについて認識を深めていくことを目指します。
農と暮らし／自然を体験する	2		今村 直美	有機農家としての10年以上の経験、また農福連携の実践を活かし、人と自然、人と食の関わりや環境にやさしい暮らしについて共に考えます。また、環境保全型農業の重要性について認識し、栽培上の問題を具体的にどう解決するか学びます。
キャリア・プランニング I	2		江口 智子	株式会社マイナビ等において就職関連業務に従事している方を講師に招き、職業や就職に向けた基礎的な理解をするとともに、自らの人生を考えながら自己を理解し社会の基本について学ぶ。
キャリア・プランニングIV(1)	2		櫻井 正	・実際の就職活動に向けた実践的な内容である ・マイナビ等、就職関連業務に従事している方を講師に招き、業界研究をはじめエントリーシート・面接対策等、実際の就職活動を想定した実践的な授業をおこなう
心理演習		4	佐藤 哲康	医療機関・福祉施設・教育機関等での心理専門職としての心理支援に関する実務経験をもとに具体的な場面を設定した演習を実施する。 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握、支援計画を作成する。 心理に関する支援を要する者等の現実生活を視野に入れたチームアプローチを学習する。 心理に関する支援に関する多職種連携及び地域連携について理解し説明する。 公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解し説明する。 なお、本授業は実務的教育を行う心理学科の授業に指定されている。
心理演習		4	松岡 靖子	心理支援に関する実務経験をもとに具体的な場面を設定した演習を実施し、公認心理師として必要とされる知識及び技能の基盤を身につける。 公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解する。
心理的アセスメント		2	平間 さゆり	精神科・心療内科の医療現場や犯罪における精神鑑定において心理検査を実施している実務経験を活かし、各心理検査の実施方法及び解釈法などについて講義する。各心理検査を実施することにより、検査で何を見ることができているのかについて経験する。また、心理検査がどのように心理臨床の場面で活用されているのかについて学ぶことを目的とする。
発達心理学		2	松岡 靖子	生涯発達心理学の視点から、人間の誕生前後から死に至るまでを対象とし、基本的な理論や発達のメカニズムについて解説していく。またカウンセラーとしての学校現場での実務経験から、現代の子どもたちの問題を取り上げ、心理学的視点を持つことで子どもの発達をどのように支援していくかの理解を促す。
教育・学校心理学		2	松岡 靖子	現代の児童・生徒が直面する問題は複雑化している。この講義では学校という組織の中で起こる問題について、スクールカウンセラーとしての実務経験から具体的に説明し、臨床心理学的視点からどのように児童・生徒の成長や学校組織を支援していくかを考える。
福祉心理学		2	片岡 友香	福祉というのは幅が広く、イメージを持ちづらい学生もいるかもしれないが、全人類の人権の確保と自己実現に繋がっている。福祉分野に心理職が働くことは近年の動きであり今後増加していくことが予想される。 本授業では、福祉現場で必要となる知識や心理職としての支援法について学修を行うことに加え、福祉分野の臨床心理士・公認心理師として実務経験で出会った事例に加筆・修正したものを題材として用いることで学生は現場に近い感覚を得ながら問題解決する能力が身に着く。
障害者・障害児心理学		2	片岡 友香	臨床心理士・公認心理師として関わる障害について、概念、定義、支援先、支援法などについて学修し知識を定着させる。母子保健分野や福祉分野の授業を行う際には、実務経験で出会った事例に加筆・修正したものを利用することで現場で使える連携の方法を捉える。時にグループワークを用いて自ら問題解決する能力やアウトプットする能力を身に付ける。
司法・犯罪心理学		2	平間 さゆり	犯罪という社会的逸脱行為は、生活の延長上で生じる社会事象の一部であることを意識した授業を行う。司法精神鑑定時において心理検査を実施している実務経験に基づき、犯罪者に行う精神鑑定の役割、及び裁判員裁判制度に必要な知識を得る講義をする。さらに、身近な家事事件についての基礎的な知識を得る授業を行う。
小 計	8	20		
合 計		28		

**<実務経験のある教員等による授業科目>**

文学部 日本文化学科

科目名	単位数		教員名	授業概要
	共通教育科目	専門教育科目		
日本の政治と国際社会(1)	2		戸田 隆夫	本が国際社会とどのように関わり、どのような影響を受け、また与えてきたのか、について、主に近現代における転換点に焦点を当てて理解を深め、それらを踏まえ、未来の日本と国際社会のあり方について自分自身の考えを述べるができるようになることが本講の目的です。本講では、欧米への留学・勤務に加えて、長年、世界各地の開発途上国との国際協力に従事してきた担当教員の経験値を活かし、欧米のみならず、アジア・大洋州、アフリカ、中南米等、より広い視野から、日本と世界の関わりについて認識を深めていくことを目指します。
農と暮らし／自然を体験する	2		今村 直美	有機農家としての10年以上の経験、また農福連携の実践を活かし、人と自然、人と食の関わりや環境にやさしい暮らしについて共に考えます。また、環境保全型農業の重要性について認識し、栽培上の問題を具体的にどう解決するか学びます。
キャリア・プランニング I	2		江口 智子	株式会社マイナビ等において就職関連業務に従事している方を講師に招き、職業や就職に向けた基礎的な理解をするとともに、自らの人生を考えながら自己を理解し社会の基本について学ぶ。
キャリア・プランニングⅣ(1)	2		櫻井 正	・実際の就職活動に向けた実践的な内容である ・マイナビ等、就職関連業務に従事している方を講師に招き、業界研究をはじめエントリーシート・面接対策等、実際の就職活動を想定した実践的な授業をおこなう
日本語と文化		2	鈴木 未恵	他者との話し合いを通して自己の文化に気づき、多様な文化を知る。また、異文化理解・異文化コミュニケーションを考え、多文化共生とは何かについて考える。海外で日本語教育・学校教育に従事した経験を活かし、実践的なテーマでのグループディスカッションを目指す。
日本語教育入門		2	長崎 靖子	日本語学校で日本語教員として勤務した経験を活かし、本授業では、外国語として日本語を教える場合に必要知識を実践的な内容から教授し、その能力を養う。
日本語教育史		2	長崎 靖子	日本語学校で日本語教員として勤務した経験を活かし次の知識を養う授業を行う。 (1)日本語教育の歴史に関する知識を養う。 (2)日本語教授法の種類とその特徴に関する知識を養う。
日本語教育演習 (日本語教育実習を含む)		2	張 明	日本語学校で日本語教員として勤務した経験を活かし、将来日本語教育に携わることを目指す学生に、日本語学校で日本語教育実習を行うことのできる知識並びに実践的な日本語教授法を教え、その力を養う。外国人日本語学習者を対象とした授業を組み立て、模擬授業と教壇実習を行うことにより、実践力を高めていく。さらに振り返りと反省により、課題を見つけて議論し、授業の改善と自己の成長につながる。
日本の美術(1)		2	眞田 尊光	地域博物館の学芸員として絵画・彫刻・工芸品等の美術資料を扱った経験を活かし、日本の美術品や伝統的建築と付随する庭園に関する基礎知識や鑑賞法の習得を、実物作品を取り扱う実習やフィールドワークにもとづいて行う。日本の伝統的な文様や画題等を参考にデザイン作成の課題に取り組む。
日本の美術(2)		2	眞田 尊光	地域博物館に学芸員として勤務し、美術工芸品の調査研究・展示を行った経験を活かし、日本の多様な工芸品の特徴を分かりやすく解説するとともに、実物の観察や取り扱いを学ぶ実習も行う。
文化財の保護と修復(1)		2	眞田 尊光	地域博物館での学芸員経験をもとに、日本の文化財保護の理念と実際について、実物資料を用いた実習や大学近隣地域でのフィールドワークを通じて具体例をもとに学習する。
文化財の保護と修復(2)		2	眞田 尊光	地域博物館での学芸員経験をもとに、日本の文化財保護の理念と実際について、実物資料を用いた実習や大学近隣地域でのフィールドワークを通じて具体例をもとに学習する。
日本文化実技Ⅱ(1)(日本舞踊)		1	西川 祐子	十世宗家西川扇藏の長女に生まれ、日本舞踊家として国立劇場主催公演を始めとする舞台に出演する傍ら、多くの弟子を育成している。文化庁主催芸術祭優秀賞などを受賞。これら経験に基づき、以下を目的とした授業を行う： 古典舞踊の代表的な作品を実習し、その所作・身体表現の技法を学び、現代にも共通する美意識や価値観を実生活に生かす 毎回浴衣を着ることで、和服の自装・他装の技能を習得する
日本文化実技Ⅱ(2)(日本舞踊)		1	西川 祐子	十世宗家西川扇藏の長女に生まれ、日本舞踊家として国立劇場主催公演を始めとする舞台に出演する傍ら、多くの弟子を育成している。文化庁主催芸術祭優秀賞などを受賞。これら経験に基づき、以下を目的とした授業を行う： 古典舞踊の代表的な作品から、所作・身体表現の技法を学び、現代にも共通する美意識や価値観を実生活に生かす 毎回浴衣を着ることで、和服の自装・他装の技能を習得する
日本文化実技Ⅵ(1)(能の仕舞・謡い)		1	葛野 りさ	能楽師としての舞台経験を基に授業を進め、観客の前で仕舞と謡を発表できるように指導します。能楽の基本的な舞である「仕舞(しまい)」は白足袋をはいて扇を持ち、『猩々』等を舞います。能楽の歌の歌唱である「謡(うたい)」は謡本を使って『土蜘蛛』等を謡います。
日本文化実技Ⅵ(2)(能の仕舞・謡い)		1	葛野 りさ	能楽師としての舞台経験を基に授業を進め、観客の前で仕舞と謡を発表できるように指導します。能楽の基本的な舞である「仕舞(しまい)」は白足袋をはいて扇を持ち、舞を舞います。能楽の歌の歌唱である「謡(うたい)」は謡本を使って『土蜘蛛』等を謡います。
小 計	8	20		
合 計		28		

＜実務経験のある教員等による授業科目＞

教育学部 幼児教育学科

科目名	単位数		教員名	授業概要
	共通教育科目	専門教育科目		
日本の政治と国際社会(1)	2		戸田 隆夫	本が国際社会とどのように関わり、どのような影響を受け、また与えてきたのか、について、主に近現代における転換点に焦点を当てて理解を深め、それらを踏まえ、未来の日本と国際社会のあり方について自分自身の考えを述べるようになることが本講の目的です。本講では、欧米への留学・勤務に加えて、長年、世界各地の開発途上国との国際協力に従事してきた担当教員の経験値を活かし、欧米のみならず、アジア・大洋州、アフリカ、中南米等、より広い視野から、日本と世界の関わりについて認識を深めていくことを目指します。
農とくらし／自然を体験する	2		今村 直美	有機農家としての10年以上の経験、また農福連携の実践を活かし、人と自然、人と食の関わりや環境にやさしい暮らしについて共に考えます。また、環境保全型農業の重要性について認識し、栽培上の問題を具体的にどう解決するか学びます。
キャリア・プランニング I	2		江口 智子	株式会社マイナビ等において就職関連業務に従事している方を講師に招き、職業や就職に向けた基礎的な理解をするとともに、自らの人生を考えながら自己を理解し社会の基本について学ぶ。
キャリア・プランニング IV(1)	2		櫻井 正	・実際の就職活動に向けた実践的な内容である ・マイナビ等、就職関連業務に従事している方を講師に招き、業界研究をはじめエントリーシート・面接対策等、実際の就職活動を想定した実践的な授業をおこなう
保育内容の理解と方法(児童文化)	2		北村 真理	・保育所保育指針に示される保育内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための児童文化について理解し、知識や技術を実践的に習得することを目的とする。 ・子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な児童文化財の知識や技術を習得し、保育教材としての児童文化財の活用及び作成、さらに保育環境の構成や具体的な展開のための技術を学ぶ。 ・幼保連携型認定こども園における保育教諭の実務経験を活かし、実践的な授業を展開する。
保育の計画と評価	2		山下 佳香	・保育内容の充実に資する保育計画及び評価について理解するためディスカッションやグループワークを行う。 ・全体的な計画と指導計画を作成する意義と方法及び保育の課程について理解する。 ・指導案を作成し実践やプレゼンテーションの中で保育の計画及び評価について理解し、全体的な計画と指導計画の作成の意義と方法について習得する。 ・幼稚園や保育所での実務経験を活かし、課題解決型学習をしながら保育の課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について具体的に学ぶ。
幼稚園経営論(幼稚園安全を含む)	2		黒瀬 優子	幼稚園長の経験を活かし、幼稚園や教育行政機関の目的とその実現、幼稚園と地域との連携・協働、危機管理を含む学校安全について、経営の観点から学習する。
特別支援教育(保育を含む)	2		向野 光	特別支援教育(保育を含む)について理解し、具体的な支援の方法を学ぶ。 障害児施設での保育の経験を活かして、事例を交えて実践的な支援の実際を学ぶ。 津守眞の障害児保育論を元に障害児の保育の基本を学ぶ。
人間関係	2		白石 優子	乳児及び幼児を取り巻く人間関係を巡る現代的課題を理解し、子育て支援への理解を深めるとともに、関係発達論的視点から乳児期から幼児期までの人間関係の発達を理解する。 幼稚園教諭としての実務経験を活かした授業展開を行う。
環境	2		山下 佳香	・乳幼児期は人生における芽生えの時期であり、この時期に育むことができたことが子どもにとって後々にかけがえのないものになる。そうした点を踏まえて、領域「環境」の内容として自然および人・物との関わりから、乳幼児にとって望ましい保育環境を幼稚園や保育園での実務経験を活かして考察する。 ・領域「環境」という視点から人として保育者として大切なことに目を向ける。 ・ディスカッション・ディベート、グループワークやプレゼンテーションを行い様々な考え方の視野を広げ保育事情に対して興味関心を高める。
保育内容人間関係の指導法	2		白石 優子	領域「人間関係」のねらい及び内容を乳幼児保育の視点を踏まえ理解するとともに、乳幼児の発達や学びの過程を理解する。それらを踏まえて具体的な保育場面を想定し、保育を構想する方法を習得する。 幼稚園教諭としての実務経験を活かして、模擬保育時の助言を行う。
保育内容環境の指導法	2		山下 佳香	・『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』などに示された領域「環境」の内容や、効果的に援助する方法についてICTを活用した双方向型授業、フィールドワークなど、幼稚園や保育所での実務経験を活かして理解する。 ・応答的な授業を目的としディスカッションやグループワークなど主体的・対話的な学びを通して子ども理解を深めると共に、領域「環境」に関わる指導案を作成し模擬保育(プレゼンテーション)を実施、問題解決型学習を行いより良い保育実践の検討を行う。
保育内容表現の指導法	2		北村 真理	・養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識、技術を習得することを目指す。 ・保育の過程の実際について理解し、子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していく方法や技術、実態や状況に即した援助や関わりについて、主に感性の育ちと表現に関する観点から具体的に学ぶ。 ・幼保連携型認定こども園における保育教諭の実務経験を活かし、実践的な授業を展開する。
教育相談	2		白石 優子	(1)教育相談の意義とそれに関わる心理学理論について学ぶ (2)教育相談に必要なカウンセリングマインドと技法について学ぶ (3)保護者や周囲と連携して支援を進める在り方について学ぶ 幼稚園教諭・精神科クリニック等での心理職としての経験を活かして、実技を指導する。
子どもの保健	2		佐藤 里美	小児科看護師としての経験を活かして、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義と身体の発育・発達、健康状態の把握方法、疾病とその予防法を学ぶ。他職種との連携と適切な対応について理解を深める。
子どもの健康と安全	2		山崎 久江	保育園園長の経験を活かして、「子どもの保健」での学習を踏まえた多様で実践的な保健演習に取り組みながら、子どもの健康と安全を守るための知識と技術を習得し、適切な判断のもとより良い援助ができる力を培う。

乳児保育 I		2	江村 綾野	保育施設での実務経験をふまえて、乳児保育の意義、目的、役割、乳児保育の現状と課題、保育内容、職員間の連携、家庭や関係機関との連携について概説する。
乳児保育 II		2	江村 綾野	保育施設での実務経験をふまえた講義と演習によって乳児(3歳未満児)の発達と特性をふまえた援助と関わりについて理解する。環境を通した養護と教育の理解のため、保健的環境やあそびの環境、さらには計画の実際について学ぶ。
子育て支援		2	江村 綾野	保育施設での実務経験をふまえた講義と演習により保育者による子育て支援(保護者支援)の理論と方法を学び、ロールプレイやグループワークによって実践的に身につける。
児童文化		2	北村 真理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な児童文化財の知識や技能を習得する。さらに絵本を活用したごっこ遊びと劇あそびの考案とこれらに必要な保育環境の構成など、具体的な展開方法を習得する。</li> <li>・幼保連携型認定こども園における保育教諭の実務経験を活かし、実践的な授業を展開する。</li> </ul>
小 計	8	32		
合 計		40		



**<実務経験のある教員等による授業科目>**

教育学部 児童教育学科

科目名	単位数		教員名	授業概要
	共通教育科目	専門教育科目		
日本の政治と国際社会(1)	2		戸田 隆夫	本が国際社会とどのように関わり、どのような影響を受け、また与えてきたのか、について、主に近現代における転換点に焦点を当てて理解を深め、それらを踏まえ、未来の日本と国際社会のあり方について自分自身の考えを述べるようになることが本講の目的です。本講では、欧米への留学・勤務に加えて、長年、世界各地の開発途上国との国際協力に従事してきた担当教員の経験値を活かし、欧米のみならず、アジア・大洋州、アフリカ、中南米等、より広い視野から、日本と世界の関わりについて認識を深めていくことを目指します。
農とくらし／自然を体験する	2		今村 直美	有機農家としての10年以上の経験、また農福連携の実践を活かし、人と自然、人と食の関わりや環境にやさしい暮らしについて共に考えます。また、環境保全型農業の重要性について認識し、栽培上の問題を具体的にどう解決するか学びます。
キャリア・プランニング I	2		江口 智子	株式会社マイナビ等において就職関連業務に従事している方を講師に招き、職業や就職に向けた基礎的な理解をするとともに、自らの人生を考えながら自己を理解し社会の基本について学ぶ。
キャリア・プランニングIV(1)	2		櫻井 正	・実際の就職活動に向けた実践的な内容である ・マイナビ等、就職関連業務に従事している方を講師に招き、業界研究をはじめエントリーシート・面接対策等、実際の就職活動を想定した実践的な授業をおこなう
学校経営論(学校安全を含む)	2		山口 祐子	実務家教員としての経験を生かし、以下3点に取り組む。①公教育の目的と学校におけるその実現について経営的諸観点から検討し理解する。②学校・地域連携の意義と課題を多様な事例と共に理解する。③近年重要性を増す学校安全について、取り組み事例を踏まえながら理解する。
算数科教育法	2		田中 聡	□ 中学校・教育委員会等での実務経験を活かし、算数指導法の理論的基礎、学習指導要領に基づく4領域の教材研究の方法と学習指導案の作成法を学ぶ。
音楽科教育法	2		奥田 順也	学習指導要領をふまえた音楽科の目的・内容の理解、各領域各分野の教材研究と指導法の習得、学習指導案の作成と模擬授業をとらして実践的な指導力を身に付ける。 小学校の音楽科指導の実務経験を適宜、授業内で事例として取り上げながら授業全体を構成する。
体育科教育法	2		松本 祐介	小学校での授業経験を活かした実践的指導のもと、指導案作成や模擬授業実践と省察等を通して、体育授業の実践的指導力を身に付けるとともに、自らの授業を適切に評価し反省的実践家となることを目的とする。
教育実習演習(事前・事後指導)	2		山口 祐子	小学校での実務経験を生かし、学校種間の連携や、教育実習に臨む姿勢・教材研究・参観の視点等を学ぶ。教育実習に行くために必要な、教職に関して身に付けてきた知識等を、ディスカッションを行いながら整理する。
国語	4		横山 悦子	調べる学習、協働学習等を通して、国語科についての基礎的な理解を深め、国語科教育への関心と意欲を高めることを目指す。実務家教員としての経験を活かし、児童にとって意味のある授業のあるべき姿を探究していく。
理科	2		加藤 美由紀	エネルギー、粒子、生命、地球の各領域に対応した実験実習を通して、自然科学の知識や技能、思考力を身に付ける。 授業での実験実習に備えて、事前学修としてTeamsに配布する資料を読み、小中学校の理科の内容を確認する。 授業で実験実習を行い、事後学修として実験実習のレポートを作成することで、科学的思考力を身に付ける。 中学高校に勤務した実務経験を活かして小中高の接続性を意識しながら授業を行う。
音楽	2		奥田 順也	歌唱・器楽・音楽づくり、鑑賞の主たる教材曲、および日本の伝統音楽などについて学ぶ。 小学校の音楽科指導の実務経験を適宜、授業内で事例として取り上げながら授業全体を構成する。
体育	2		松本 祐介	小学校での授業実践経験を活かした指導として、体育授業を教師の立場から実践する前段階として、学生が児童の立場で体育授業を経験し、学習指導要領に基づいた体育授業について理解する。
ピアノ実技とソルフェージュ	2		奥田 順也	小学校の歌唱共通教材のピアノ伴奏を習得する。 小学校の音楽指導に必要な読譜力や楽典の知識などを習得する。 小学校の音楽科指導の経験を適宜、授業内で事例として取り上げながら授業全体を構成する。
小計	8	22		
合計	30			

＜実務経験のある教員等による授業科目＞

生活創造学部 生活文化学科

科目名	単位数		教員名	授業概要
	共通教育科目	専門教育科目		
日本の政治と国際社会(1)	2		戸田 隆夫	本が国際社会とどのように関わり、どのような影響を受け、また与えてきたのか、について、主に近現代における転換点に焦点を当てて理解を深め、それらを踏まえ、未来の日本と国際社会のあり方について自分自身の考えを述べるようになることが本講の目的です。本講では、欧米への留学・勤務に加えて、長年、世界各地の開発途上国との国際協力に従事してきた担当教員の経験値を活かし、欧米のみならず、アジア・大洋州、アフリカ、中南米等、より広い視野から、日本と世界の関わりについて認識を深めていくことを目指します。
農とくらし／自然を体験する	2		今村 直美	有機農家としての10年以上の経験、また農福連携の実践を活かし、人と自然、人と食の関わりや環境にやさしい暮らしについて共に考えます。また、環境保全型農業の重要性について認識し、栽培上の問題を具体的にどう解決するか学びます。
キャリア・プランニング I	2		江口 智子	株式会社マイナビ等において就職関連業務に従事している方を講師に招き、職業や就職に向けた基礎的な理解をするとともに、自らの人生を考えながら自己を理解し社会の基本について学ぶ。
キャリア・プランニングⅣ(1)	2		櫻井 正	・実際の就職活動に向けた実践的な内容である ・マイナビ等、就職関連業務に従事している方を講師に招き、業界研究をはじめエントリーシート・面接対策等、実際の就職活動を想定した実践的な授業をおこなう
社会生活入門(1)		2	齋藤 美重子	家庭科教員や企業で働いてきた経験を活かしつつ家政学及び社会学の諸理論によって社会現象を分析し、課題を発見して課題解決と生活の質を高めるため必要な環境・自助・互助・共助・公助について理解する。 金融庁や東京都、Courseraの教育リソースを活用して自分自身のライフデザインを検討する。
社会生活入門(2)		2	齋藤 美重子	家庭科教員や企業で働いてきた経験を活かしつつ、家政学及び社会学の視座に基づき、生活を取り巻く社会現象を分析理解する。NPO法人PARCで金融教育に従事している方や、風力発電等自然エネルギーの専門家、たんぱく質研究の専門家を招き、実務経験を活かした内容を行う。また、ICTを活用して生活と社会全体のつながりを理解する。
農と地産地消／自然を考える I		2	今村 直美	有機農家として営農し農福連携に取り組んできた経験を活かし、実際に野菜の有機栽培を行います。 地域の農業や食が抱える課題を学び、SDGsの視点を踏まえながらグループディスカッションを行い、共に考えます。そしてその課題に対して、自分たちが育てた野菜でどんなことができるのか(レシピ考案等)、問題の解決を探り、プレゼンテーションを行います。
農と地産地消／自然を考える II		4	今村 直美	有機農家としての経験と農福連携の実践とネットワークを活かし、栽培およびフィールドワークを実施します。 自分で野菜の栽培計画を立て、それに沿って栽培を行い、食や農への関心を高めます。栽培を体験しながら食や農の課題をSDGsの視点を踏まえて学びます。 また、我孫子市内の子ども食堂(フードパントリー)の活動にボランティアとして参加します。さらに農福連携に取り組む就労継続支援B型の福祉施設を訪ね学びを深めます。
消費生活論		2	齋藤 美重子	家庭科教員としての授業経験を活かし、グローバル化の中で消費者問題の構造を理解し、生活者の視点から見つめ直し改善策を探る。環境への配慮も含め消費者庁の教育リソース等を活用して消費者市民社会について考える。
ベジフル概論		2	今村 直美	有機農家として実際に野菜を栽培し販売してきた経験、さらに消費者とコミュニティを作り地産地消に取り組んできた経験を活かし、これからますます求められる消費者のエシカル消費に繋がる魅力ある発信・提案ができるよう指導する。
医療秘書実務		2	清田 悟	医療現場に従事している経験を活かし、実践的且つ現場及び医療従事者から求められる医師事務作業補助者として即応能力、実践力の学修に力点を置く。
医療事務総論		2	清田 悟	医療業界が求める医療事務を現場に従事している経験を活かし、実践的内容の教育を行い基礎を学び事例演習で理解を深める。
臨床栄養学		2	朴 善美	臨床現場(病院の栄養科、臨床研究センター)で治療食の献立作成及び栄養食事指導を行った実務経験を活かし、症例をあげて疾患の病因・病態について学ぶ。また、各臨床検査の種類と意義を理解し、検査値を読み取る力を養い、各種疾患の食事療法を修得することを目的とする。
臨床栄養学実習		1	朴 善美	治療食(一般治療食・特別治療食)の意義と目的を理解する。病院において給食管理全般の業務(一般治療食および特別治療食の献立作成、食材発注など)を担当した経験を活かし、治療食の献立作成と食事計画、調理について実習を行う。展開献立の作成、治療食の調理方法を身につけることを目的とする。
医療秘書実務実習演習(事前・事後指導)		1	清田 悟 高橋 裕子	実際に勤務している医療機関の経験を活かし、実践的教育を行う。また病院実習を円滑に行うための知識・責任・心構えをもつことを指導する。病院実習に対する目的意識を明確にし、実習後の総括を行う。
医療事務演習		1	清田 悟	民間病院、公立病院、診療所といった機能別医療機関に従事した経験を活かし、実践的内容の教育を行う。診療録及び診療録等の読解、診療報酬明細書(レセプト)の作成方法を学修し一連の流れを指導する。
小計	8	23		
合計		31		



＜実務経験のある教員等による授業科目＞

生活創造学部 観光文化学科

科目名	単位数		教員名	授業概要
	共通教育科目	専門教育科目		
日本の政治と国際社会(1)	2		戸田 隆夫	本が国際社会とどのように関わり、どのような影響を受け、また与えてきたのか、について、主に近現代における転換点に焦点を当てて理解を深め、それらを踏まえ、未来の日本と国際社会のあり方について自分自身の考えを述べるができるようになることが本講の目的です。本講では、欧米への留学・勤務に加えて、長年、世界各地の開発途上国との国際協力に従事してきた担当教員の経験値を活かし、欧米のみならず、アジア・大洋州、アフリカ、中南米等、より広い視野から、日本と世界の関わりについて認識を深めていくことを目指します。
農と暮らし／自然を体験する	2		今村 直美	有機農家としての10年以上の経験、また農福連携の実践を活かし、人と自然、人と食の関わりや環境にやさしい暮らしについて共に考えます。また、環境保全型農業の重要性について認識し、栽培上の問題を具体的にどう解決するか学びます。
キャリア・プランニングⅠ	2		江口 智子	株式会社マイナビ等において就職関連業務に従事している方を講師に招き、職業や就職に向けた基礎的な理解をするとともに、自らの人生を考えながら自己を理解し社会の基本について学ぶ。
キャリア・プランニングⅣ(1)	2		櫻井 正	・実際の就職活動に向けた実践的な内容である ・マイナビ等、就職関連業務に従事している方を講師に招き、業界研究をはじめエントリーシート・面接対策等、実際の就職活動を想定した実践的な授業をおこなう
観光文化実践Ⅰ	2		江口 智子	ホスピタリティとは何かについての基礎的概念を学んだうえで、担当教員のホスピタリティ関連産業での実務経験を活かしながら、ホテルとレストランを題材にし、ホスピタリティの実践が具体的にどのように行われているのか、何が求められるのかについて考察する。プレゼンテーションやディスカッションを通して理解をさらに深めるとともに、ホテルやレストランへの訪問により実践的な学びを行っていく。
観光文化実践Ⅲ	2		櫻井 正	担当教員が運輸系旅行会社の企画部門に、長年勤務した経験や知識を活かして授業をおこなう。NPO法人地域振興支援センターからゲストを招き、展開していく課題解決型授業である。具体的には『夕留西地区都市活用プロジェクト』のまちづくりコンセプトである”地域が育む魅力的な空間と連携し、持続的な賑わいのある街を形成”に向けて、学生ならではの目線からイベントの企画立案、オペレーションに参加することを目的とする。
観光文化実践Ⅳ	2		丸上 雄哉	「観光」は地域経済の活性化に寄与することに加え、地域への愛着の涵養など様々な効果が期待できる。地域間競争を背景として様々なブランディングが施されているが、そこでは観光地の特性や課題を的確に捉え、施策を構想する力が求められる。本授業では、講師の実務経験を活かし、観光地の魅力のみならず、課題にも焦点を当てながら理論を学ぶ。併せて、実際の集客施設の見学会を複数回実施し、それらを題材として、プレーストリーミング、ケーススタディ、グループワークなど、観光地の活性化に際して必要となる手法を実践の中で学ぶ。
観光文化実践Ⅴ	2		江口 智子	バジェット・ホテル、シティ・ホテル、ラグジュアリー・ホテルなどに分類される具体的なホテルを教材として、それぞれがどのような戦略で経営されているのかを調べ、都内にあるホテルを実際に訪問し、各自の分析結果を発表し検討する。授業は担当教員の金融機関での経験を活かし、投資対象としてのホテルという視点からホテル経営の分析を行っていく。
観光文化実践Ⅶ	2		山田 祐子	本講座の対象は、ホテル・マネジメント論を履修するなど宿泊業を就職先や研究先として考えている学生とし書類と面接による選考を行った上で決定します。授業は、担当教員のホテルにおける実務経験に基づき業界や実務を解説します。履修生は、自らが選択した企業を研究していただきます。研究後は、教員が企画する夏季インターンシップに参加することができます。インターンシップに参加した者で振り返りや成果のまとめを希望する場合は後期「観光文化実践Ⅹ」の履修を推奨します。
観光文化実践Ⅹ	2		山田 祐子	本講座は、豊島区内の企業が主催する催事において、履修生自らがワークショップの企画(テーマ:SDGs)と実施を行う校外学修型プロジェクトです。授業は、担当教員の地域活性化における実務経験に基づき最新事例を扱いながらすすめます。履修の条件は、調査、企画、実施、成果報告の一連のディスカッションやグループワークへ積極的に参加をし、催事の当日(11月の土日を予定)は、授業の一環として出席することが求められます。土日に出席した分は通常時間帯で振り替えを行います。また、5～9月に開催される催事の下見を推奨します。
観光文化実践Ⅺ	2		櫻井 正	運輸系旅行会社の企画部門に長年勤務した経験や知識を活かして授業をおこなう。菜花農家である加藤菜園(千葉県南房総市)からゲストを招き、展開していく課題解決型授業である。具体的には産業としての『農業』を”観光のチカラ”で、抱える問題である「高齢化による担い手不足」「耕作放棄地の増加」などを”女子大生目線”で解決することを目的とする。『菜花のテーマパーク構想(菜花リゾート)』の実現に向け、農業の6次産業化をおこない、農林水産業を活性化させ、農山漁村を含めた地域経済を豊かにしていくグランドデザインを具現化していく。
観光の情報デザイン(1)	2		江口 智子	観光業界・地域で展開されている広報活動において、すでにICTはひろく活用されていて、ホームページやブログを整備・充実させることなどはもはや当然となった。最近では動画による観光情報の提供、さらにはそのライブ配信に関心が集まってきている。本授業では「散歩動画の制作」を最終目標とし、担当教員の雑誌メディアでの経験を活かし情報発信について受け取り側にささるコンテンツとはなにかを考察しながら、観光をめぐる情報をデザインしていく。
観光の情報デザイン(2)	2		江口 智子	観光業界・地域で展開されている広報活動において、最近では動画による観光情報の提供やそのライブ配信に関心が集まっている。なかでも食農ツーリズムによる地方創生という関心から、SNS上での動画配信が有効な手段として注目されることになっている。本授業では担当教員の雑誌メディアでの経験を活かしながら、食農ツーリズムの拠点として都内のアンテナショップを中心とした散歩動画を制作することを目標に、情報発信について受け取り側にささるコンテンツとはなにかを考察しながら、観光をめぐる情報を企画・デザインしていく。

ホスピタリティ入門		2	小山 知子	(1)さまざまな事例を見ながら、「ホスピタリティとは何か」を考え、その答えを見出して行動に移すことを目指す。 (2)おもてなし、マナーへの理解を深めながら、担当教員がかつて勤務していた航空会社をはじめとしたホスピタリティ産業の仕事内容と特性について学んでいく。 (3)顧客満足と従業員満足との関わりを学び、ホスピタリティに対する理解を深める。
ホテルマネジメント論		2	山田 祐子	本講座は、ホテル旅館をはじめとする宿泊産業を就職先として考えている学生や強い学修意欲を持つ方を歓迎します。授業は、担当教員の宿泊業における実務経験に基づき最新の事例を扱いながらすすめ、実務家によるゲスト講義も予定しています。毎回の授業終了後は、MicrosoftTeamsの機能を使用しリアクションシートを提出することを課します。くわえて、授業外学修として宿泊業を観察し分析する課題レポートを全員に行っていただきますので経営への関心が求められます。また、一部の受講生による発表も行っていただきます。
コンシェルジュ論		2	山田 祐子	本講座は、コンシェルジュやゲストサービスの機能をもつサービス産業を就職先として考えている学生や強い学修意欲を持つ方を歓迎します。授業は、最新の事例を扱いながらすすめ、実務家による講義も予定しています。毎回の授業終了後は、MicrosoftTeamsの機能を使用しリアクションシートを提出することを課します。くわえて、授業外学修として課題テキストを購読しレポートを全員に行っていただきます。また、一部の受講生による発表も行っていただきます。
エアライン事業論		2	小山 知子	航空会社客室業務員職の経験を活かし、1機の飛行機を飛ばすために、どのような人々が関わり、お客様を安全に目的地まで届けるのかを説明する。特に国内航空会社グループは、従業員それぞれの専門性を生かしながら、各部署内やグループ企業の連携が必須となっている。航空会社の経営や人材管理についての現状や課題を把握しながら、卒業後の受講生自身の将来の指針となるよう、航空業界における女性のキャリア形成についても詳しく解説する。
旅行事業論		2	山田 祐子	本講座は、旅行業をはじめとする観光関連産業を就職先として考えている学生や強い学修意欲を持つ方を歓迎します。授業は、担当教員の観光産業における実務経験に基づき最新の事例を扱いながらすすめます。15回のうち前半は、旅行業やガイド業の成り立ちから市場の現状や課題について解説し、毎回の授業終了後は、MicrosoftTeamsの機能を使用しリアクションシートを提出することを課します。後半は、豊島区内の観光地で校外学修を行いながらグループワークにて企画・造成の方法、価格の設定などを学び、成果を発表していただきます。
ブライダル事業論		2	山田 祐子	本講座は、ブライダル産業やホテル旅館業をはじめとするサービス産業へ就職を希望する学生や強い学修意欲を持つ方を歓迎します。授業は、担当教員のホテルのブライダルにおける実務経験に基づきながらすすめ、実務家によるゲスト講義も予定しています。毎回の授業終了後は、MicrosoftTeamsの機能を使用しリアクションシートを提出することを課します。くわえて、授業外学修として課題レポート(ブライダルの企画を考える)を全員に行っていただきますので事業への関心が求められます。また、一部の受講生による発表も行っていただきます。
小計	8	30		
合計		38		